

JAZA と環境省が取り組んできた野生生物保全を紹介するシンポジウムを開催

公益社団法人日本動物園水族館協会と環境省と公益財団法人東京動物園協会は、2025 年 2 月 16 日に、シンポジウムを開催しました。

2014 年に JAZA と環境省は「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」を締結しました。この協定が締結されて以降、JAZA 加盟園館がツシマヤマネコ、ライチョウ、ミヤコカナヘビ、トゲネズミ類及びスジシマドジョウ類、小笠原諸島の陸産貝類を対象に実施してきた生息域外保全の取組では、飼育下繁殖技術や科学的知見の集積などにおいて大きな成果を上げました。今回のシンポジウムでは、「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」締結 10 年を機に、これまでの野生生物保全の取組を振り返ることができました。また、パネルディスカッションで、動物園や水族館、環境省が何を行っていくべきなのかについて、考えることができました。

<開催概要>

タイトル 生物多様性保全の 10 年～動物園・水族館の挑戦と未来への展望～

日 時 2025 年 2 月 16 日（日）12 時 30 分～16 時 30 分

場 所 東京国立博物館 平成館 大講堂

参 加 応募 339 名 参加 265 名（参加率 78%）

参 加 費 無料

<プログラム>

講演 1：環境省の絶滅危惧種保全の取組み

福島 誠子 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 室長補佐

講演 2：動物園や水族館が取り組んできた野生生物保全の成果とこれから

(1) ツシマヤマネコ

山崎 理恵子 福岡市動物園 飼育第一係長

(2) ライチョウ

秋葉 由紀 富山市ファミリーパーク 動物課動物飼育展示第二係長

(3) ハカタスジシマドジョウ

鈴木 泰也 マリンワールド海の中道 魚類課係長

(4) アマミトゲネズミ

田中 秀太 神戸どうぶつ王国 動物管理課長代理

(5) ミヤコカナヘビ

本田 直也 札幌市円山動物園 客員研究員

(6) 小笠原の陸産貝類

中村 浩司 葛西臨海水族園 飼育展示課飼育展示係長

講演 3：都立動物園・水族園の様々な取組とこれから

伊藤香緒里 東京動物園協会総務部野生生物保全センター研究係主任



(1) ツシマヤマネコ



(2) ライチョウ



(3) ハカタスジシマドジョウ



(4) アマミトゲネズミ



(5) ミヤコカナヘビ



(6) アナカタマイマイ

写真提供：(3) マリンワールド海の中道、(1)(2)(4)(5)(6) 公益財団法人東京動物園協会

4. パネルディスカッション

テーマ：この 10 年でできたこと。できなかったこと。これからやるべきこと。

パネリスト：

川端 裕人 (作家)

荒牧 まりさ (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室長)

堀 秀正 (JAZA 生物多様性委員長副委員長)

コーディネーター：

渡部 浩文 (多摩動物公園長兼東京動物園協会総務部野生生物保全センター所長)

＜アンケート結果（回答数 70）から＞

- ・参加者の年代は、20代の参加者が7.1%、30代の参加者が4.3%であった。
- ・満足度は、4段階評価で、十分満足、まあ満足を超えて、92.9%であった。
- ・シンポジウムで紹介された種の実態を事前に知っていたのとの問いについては、ツシマヤマネコは77.1%、ライチョウは85.7%と高い認知度であった。アマミトゲネズミ、ミヤコカナヘビ、小笠原の陸産貝類は25%前後であった。ハカタスジシマドジョウは、1.4%であった。今後の普及啓発の強化が必要と考えられる。
- ・以下のような感想があった。
 - ・各動物園や水族館の方々の取り組みがよくわかり、繁殖には相当な努力が必要だとわかった。
 - ・保全の現場で活動する環境省の各地方環境事務所担当者のコメントやパネルディスカッションでの作家や専門家の意見など、普段聞くことのできない話をきけ、理解が深まった。
 - ・複数種の実態を比較しながら聞くことで、さらに理解を深めることができた。
 - ・断片的な情報はではなく、この10年の実態をまとめて聞くことができてよかった。動物園の存在意義について、保全のために必要な施設や人などが集まっている存在だと説明できる実感が持てた。



シンポジウムの会場



講演2で取り上げた種ごとに、環境省の地方環境事務所の担当職員から、現地での取り組み状況の報告もあった



パネルディスカッションでは、これからの動物園や水族館の取組を振り返るととも

に、これから何をしていくべきかを議論した。